

4-5 モニターツアーのアンケートの集計結果と分析

モニターツアーでは、各施設およびモニターツアー全般について現地でアンケート調査を実施した。

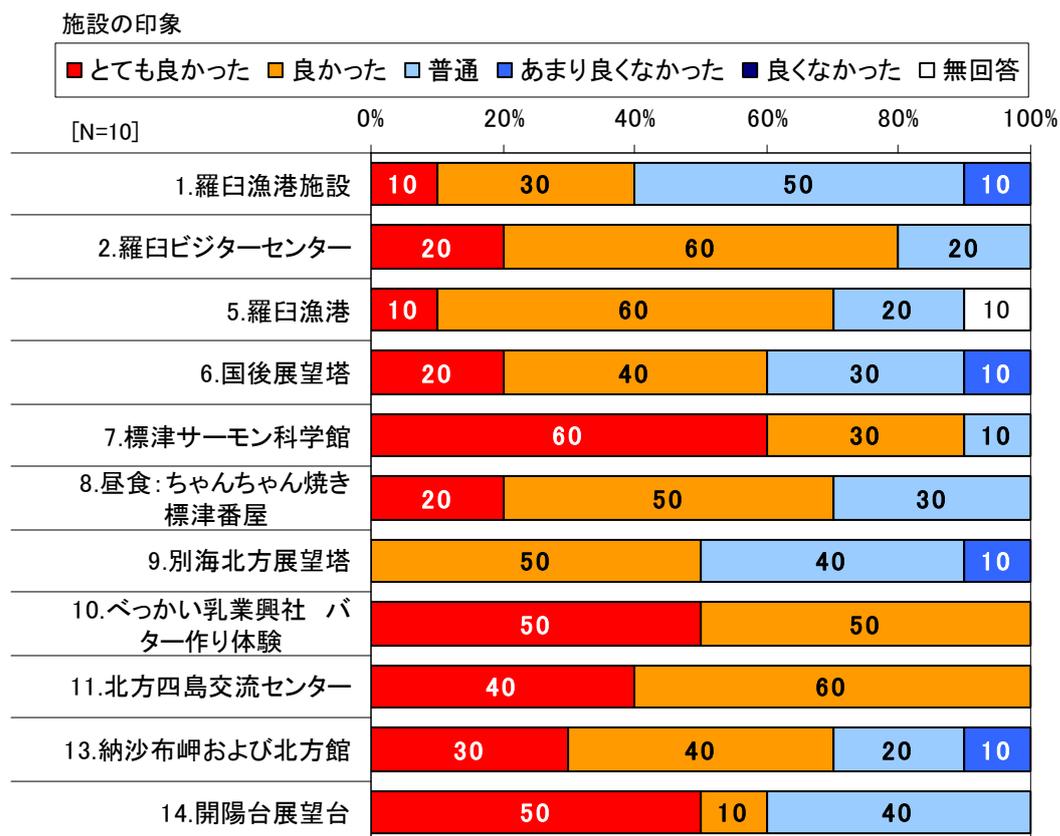
各施設については、『施設の印象』『生徒にとっての分かりやすさ』『学習効果』『訪問先としての適性』について5段階で評価する内容になっており、各施設訪問後のバス移動時等に回答いただいた。ツアー全般については、最終日の空港到着前に回答いただいた。

アンケート集計結果と分析は次のとおり。

4-5-1 施設の印象

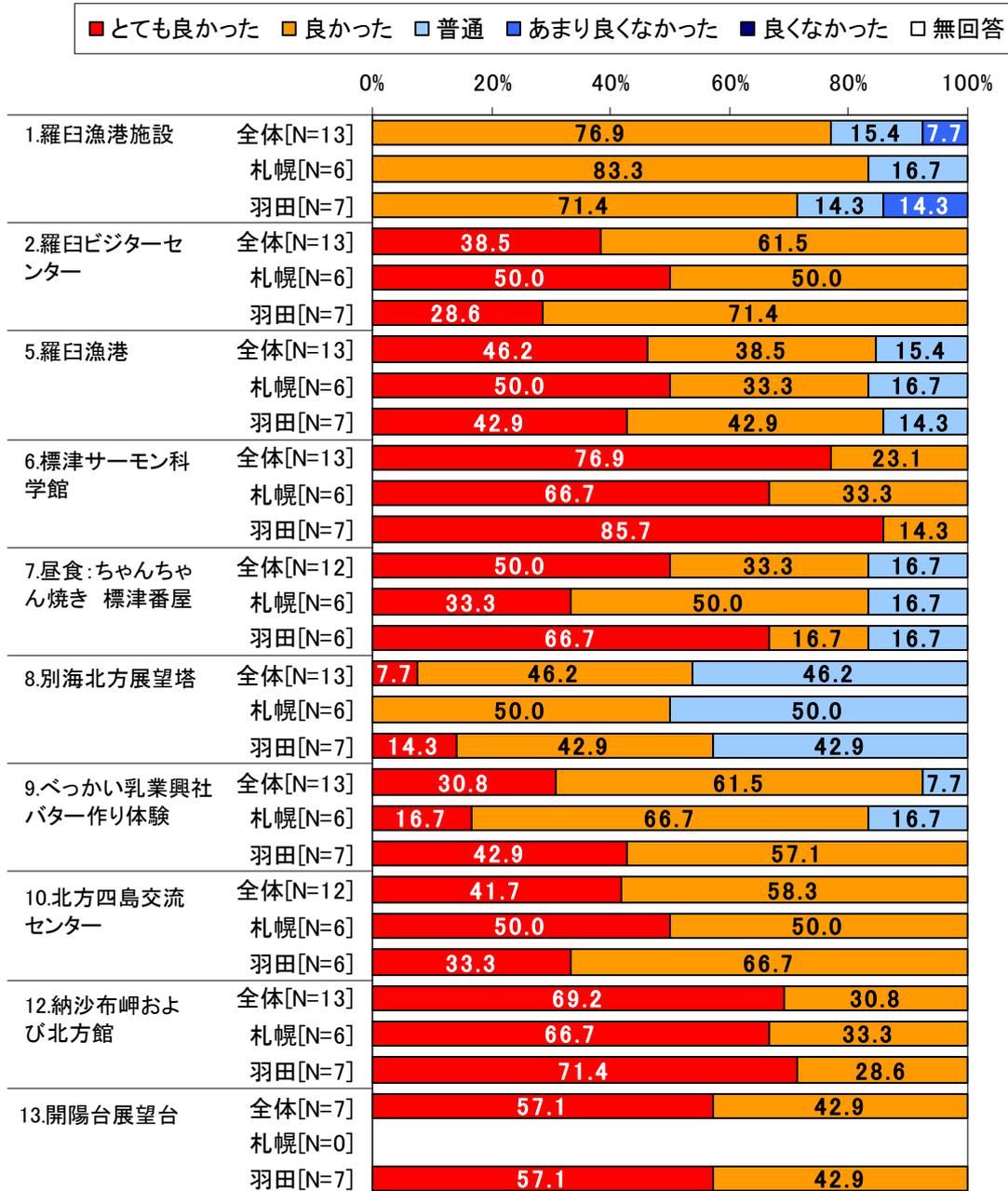
旅行代理店の回答では、『標津サーモン科学館』『べっかい乳業興社』『開陽台展望台』の印象度が高い。学校の回答では、『標津サーモン科学館』『標津番屋』『納沙布岬および北方館』『開陽台展望台』の印象度が高い。

施設の印象（旅行代理店の回答）



施設の印象（学校の回答）

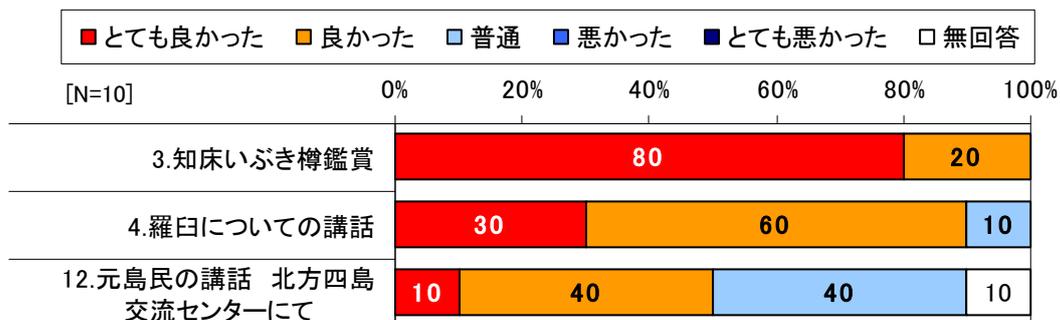
施設の印象



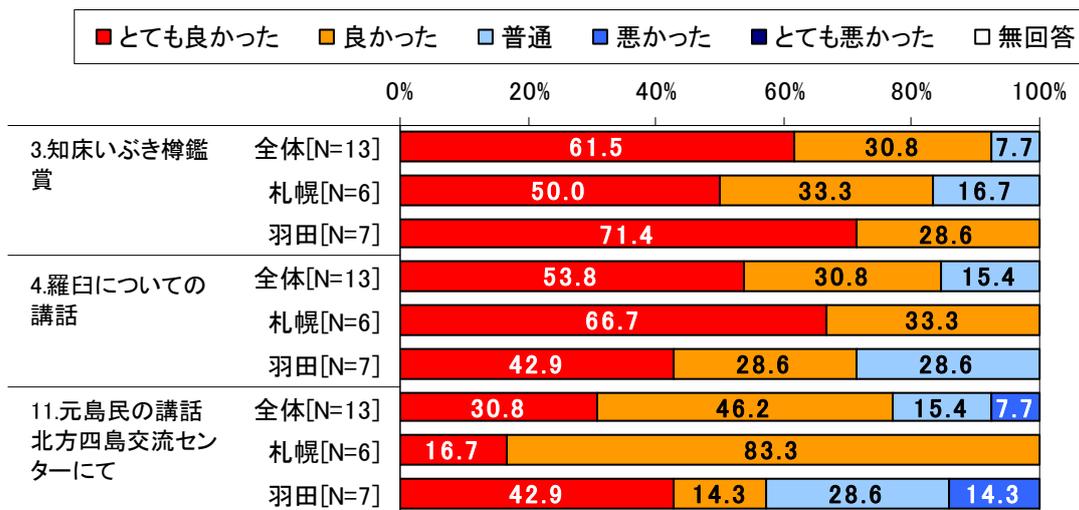
4-5-2 鑑賞や講話の印象

旅行代理店の回答では、『知床いぶき樽鑑賞』の印象度が高い。学校の回答では、『知床いぶき樽鑑賞』『羅臼についての講話』の印象度が高い。

鑑賞や講話の印象（旅行代理店の回答）



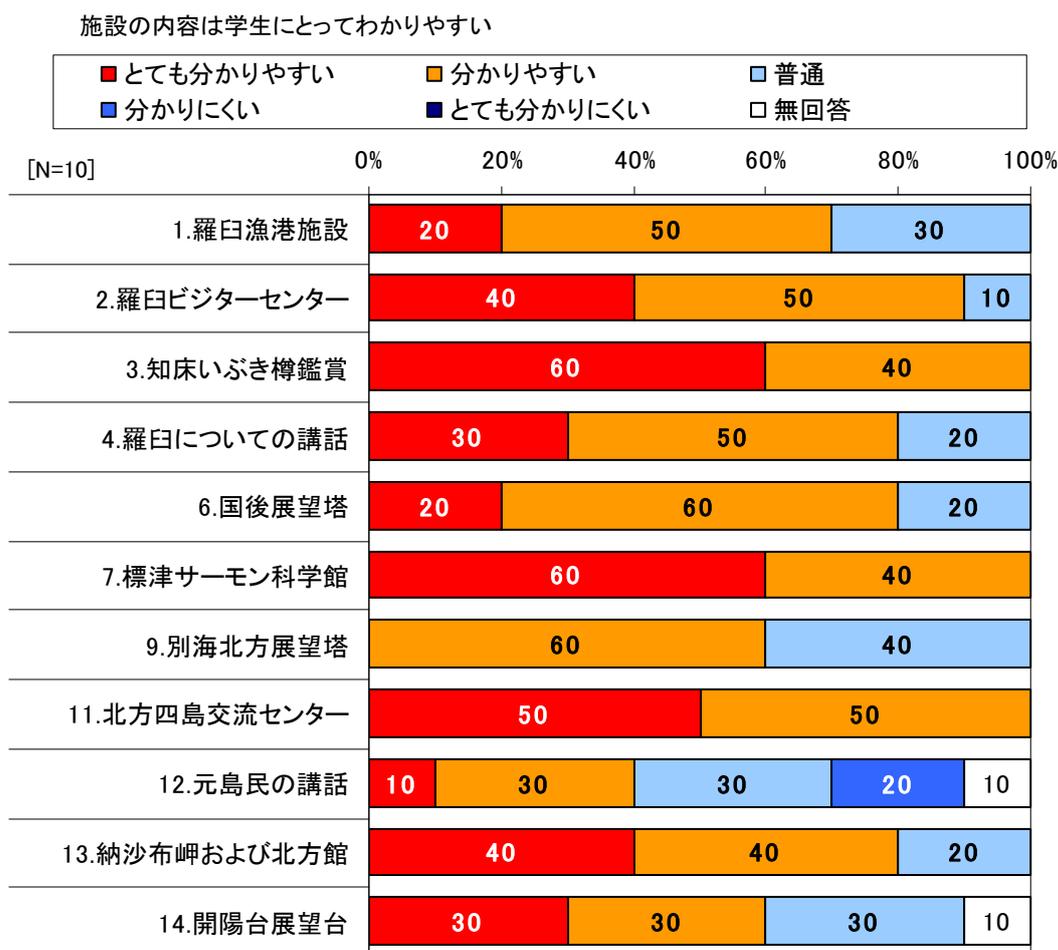
鑑賞や講話の印象（学校の回答）



4-5-3 施設の内容の生徒にとっての分かりやすさ

旅行代理店の回答では、『知床いぶき樽鑑賞』『標津サーモン科学館』『北方四島交流センター』が生徒にとってとても分かりやすいと思うとのことであった。学校の回答では、『標津サーモン科学館』が生徒にとってとても分かりやすいと思うとのことであった。『分かりやすい』の回答も含めると、ほぼ全ての施設が分かりやすいに分類できる。

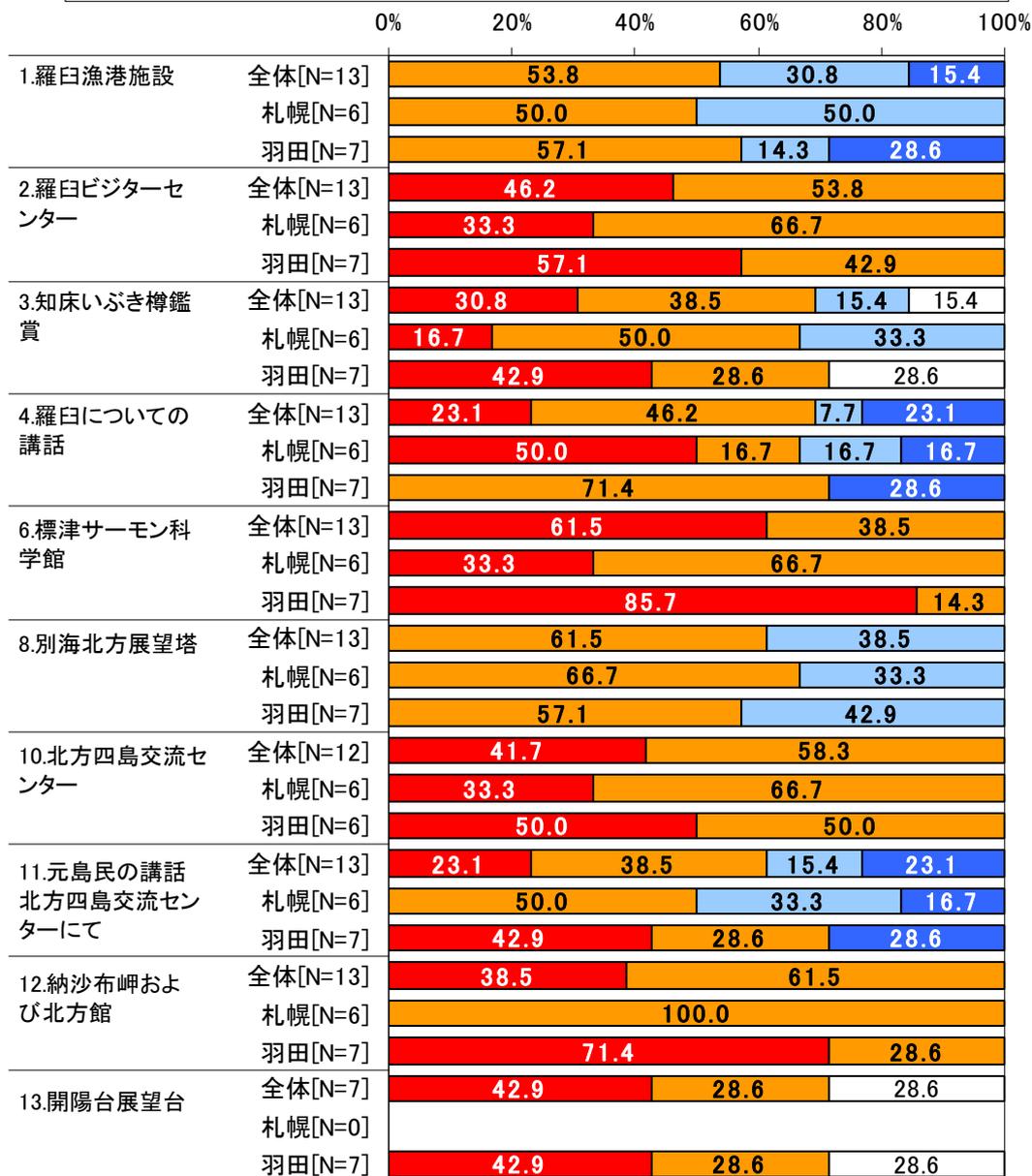
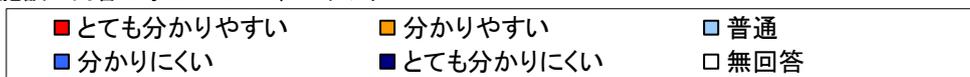
施設の内容の分かりやすさ（旅行代理店の回答）



※「羅臼漁港」「ちゃんちゃん焼き：標津番屋」「べっかい乳業興社」については、施設の内容の分かりやすさについての設問はしていない。

施設の内容の分かりやすさ（学校の回答）

施設の内容は学生にとってわかりやすいか

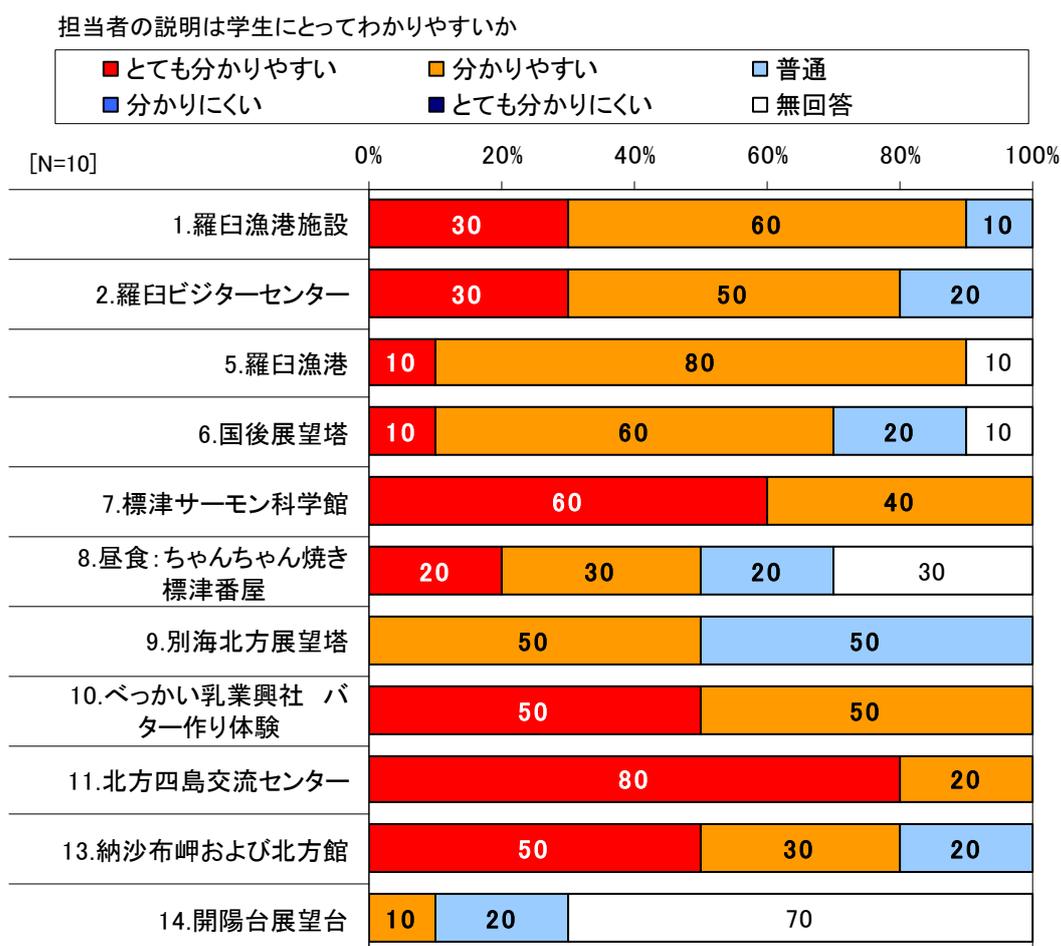


※「羅臼漁港」「ちゃんちゃん焼き：標津番屋」「べっかい乳業興社」については、施設の内容の分かりやすさについての設問はしていない。

4-5-4 担当者の説明の分かりやすさ

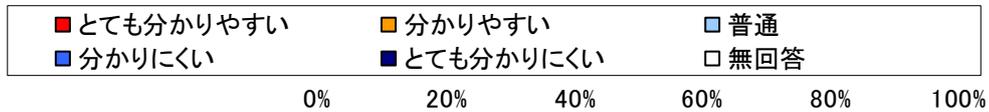
旅行代理店の回答では、『標津サーモン科学館』『北方四島交流センター』『納沙布岬および北方館』での説明が生徒にとって、とても分かりやすいと思うとのことであった。学校の回答では、『標津サーモン科学館』『納沙布岬および北方館』が生徒にとってとても分かりやすいと思うとのことであった。

担当者の説明の分かりやすさ（旅行代理店）



担当者の説明の分かりやすさ（学校）

担当者の説明は学生にとってわかりやすいか



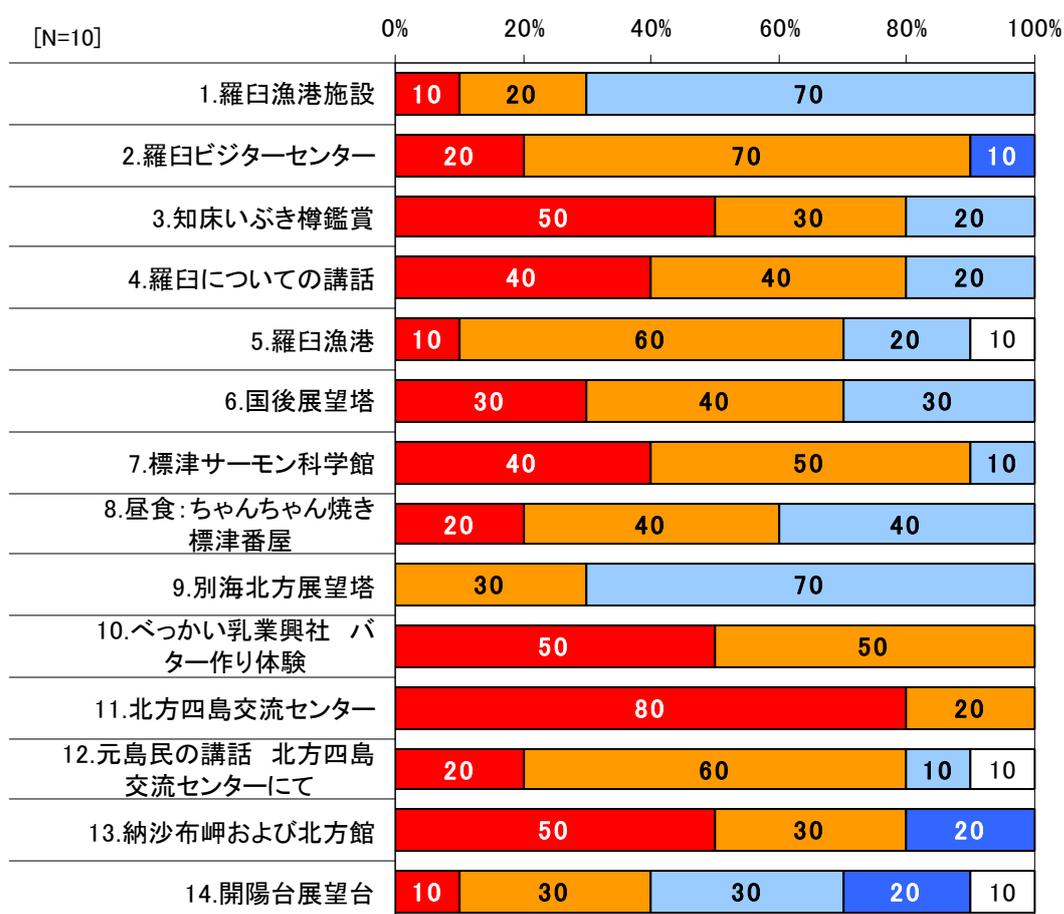
施設名	対象者	とても分かりやすい	分かりやすい	普通	分かりにくい	とても分かりにくい	無回答
1.羅臼漁港施設	全体[N=13]	23.1	46.2	30.8			
	札幌[N=6]		66.7	33.3			
	羽田[N=7]	42.9	28.6	28.6			
2.羅臼ビジターセンター	全体[N=13]	30.8	69.2				
	札幌[N=6]	33.3	66.7				
	羽田[N=7]	28.6	71.4				
5.羅臼漁港	全体[N=13]	30.8	61.5	7.7			
	札幌[N=6]		100.0				
	羽田[N=7]	57.1	28.6	14.3			
6.標津サーモン科学館	全体[N=13]	84.6	15.4				
	札幌[N=6]	66.7	33.3				
	羽田[N=7]	100.0					
7.昼食:ちゃんちゃん焼き 標津番屋	全体[N=12]	16.7	41.7	16.7	25.0		
	札幌[N=6]	16.7	33.3	33.3	16.7		
	羽田[N=6]	16.7	50.0	33.3			
8.別海北方展望塔	全体[N=13]		61.5	23.1	15.4		
	札幌[N=6]		66.7	33.3			
	羽田[N=7]		57.1	14.3	28.6		
9.べっかい乳業興社 バター作り体験	全体[N=13]	38.5	61.5				
	札幌[N=6]	16.7	83.3				
	羽田[N=7]	57.1	42.9				
10.北方四島交流センター	全体[N=12]	41.7	58.3				
	札幌[N=6]	16.7	83.3				
	羽田[N=6]	66.7	33.3				
12.納沙布岬および北方館	全体[N=13]	69.2	30.8				
	札幌[N=6]	33.3	66.7				
	羽田[N=7]	100.0					
13.開陽台展望台	全体[N=7]	28.6	28.6	14.3	28.6		
	札幌[N=0]						
	羽田[N=7]	28.6	28.6	14.3	28.6		

4-5-5 学習効果

旅行代理店の回答では、『知床いぶき樽鑑賞』『北方四島交流センター』が、とても学習効果があると思われるとの回答であった。学校の回答では、『標津サーモン科学館』『納沙布岬および北方館』とても学習効果があるとの回答であった。

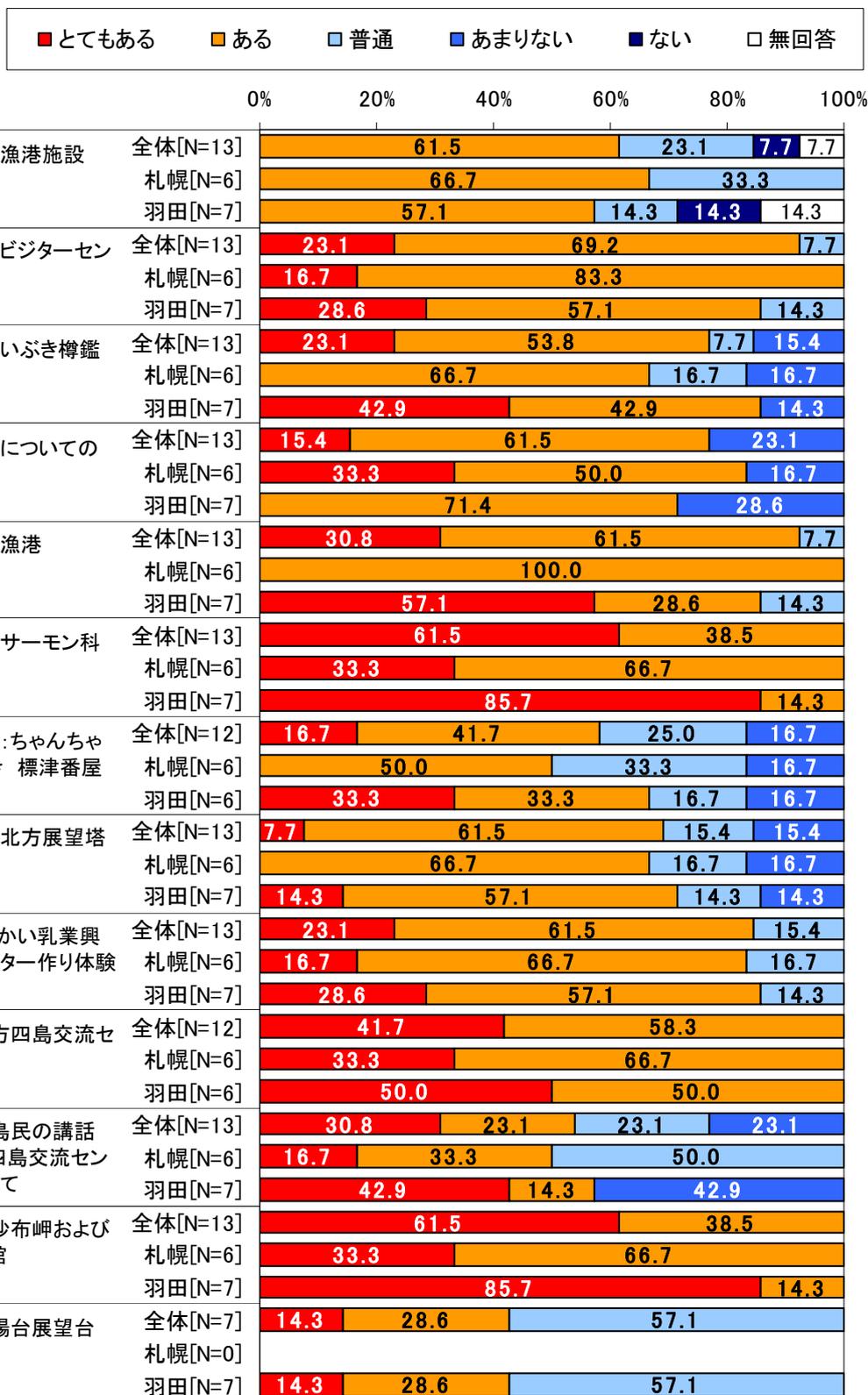
学習効果（旅行代理店）

施設の見学は、学生に学習効果があるか



学習効果（学校）

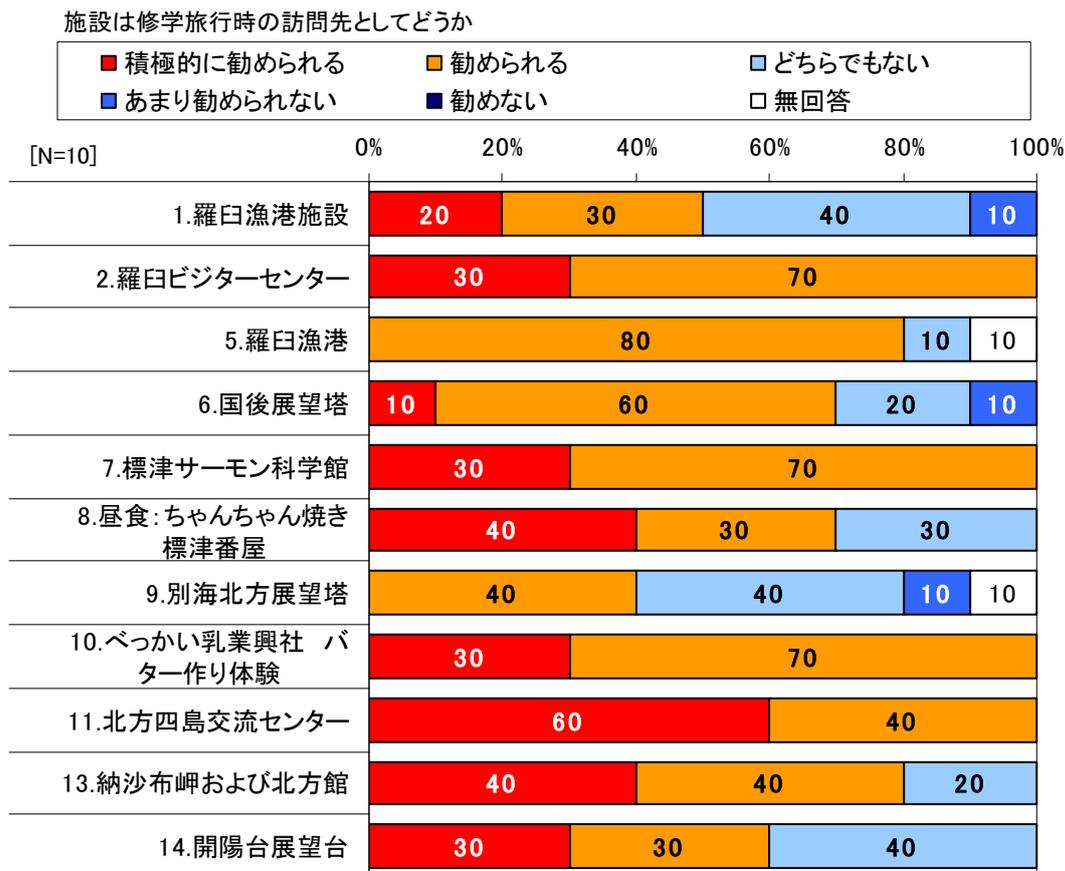
施設の見学は、学生に学習効果があるか



4-5-6 訪問先としての意向

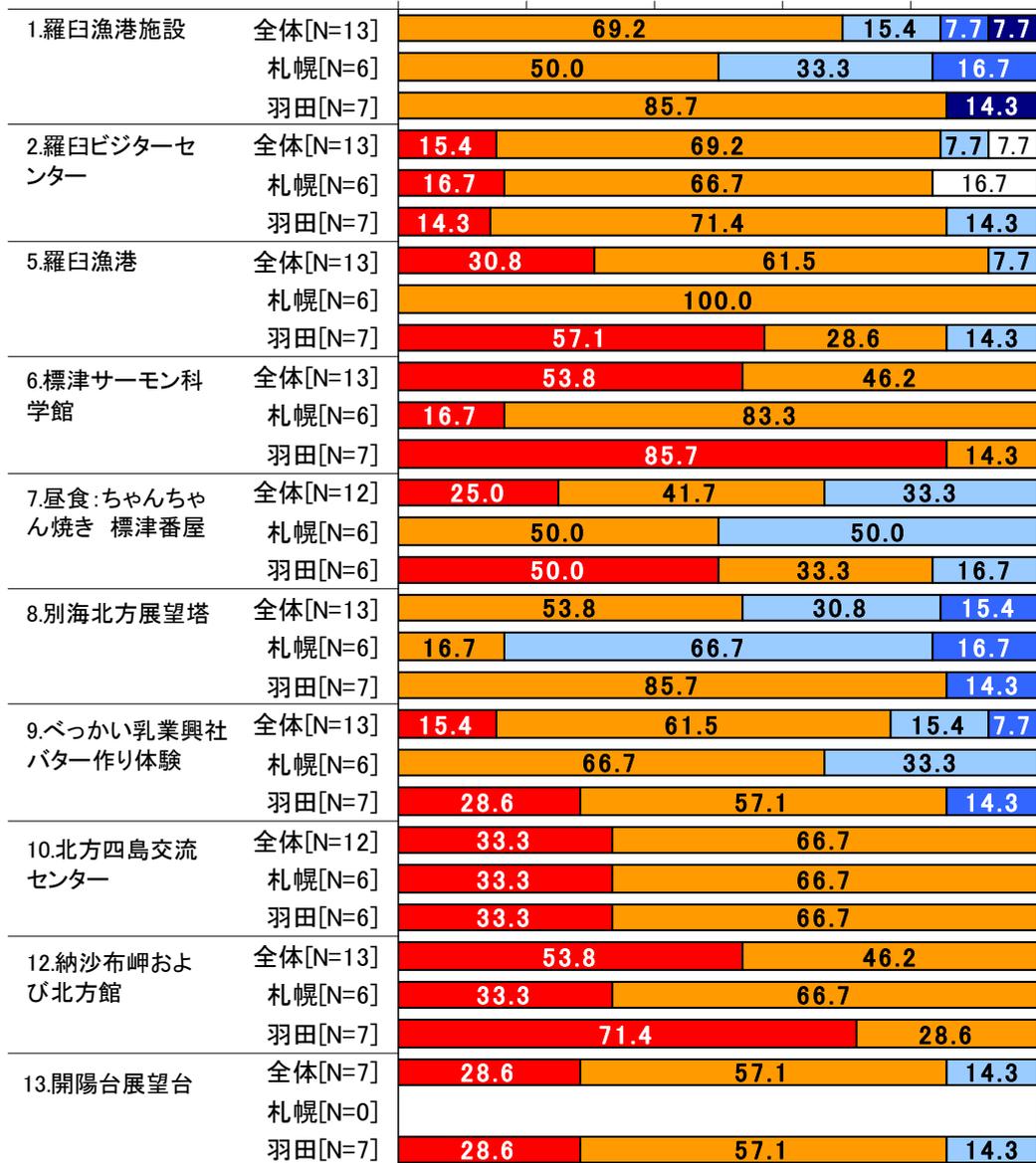
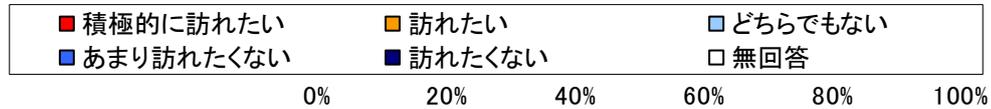
旅行代理店の回答では、『北方四島交流センター』が、積極的に勧められるとの回答であった。学校の回答では、『標津サーモン館』『納沙布岬および北方館』が積極的に訪れたいとの回答であった。

訪問先としての意向（旅行代理店）



訪問先としての意向（学校）

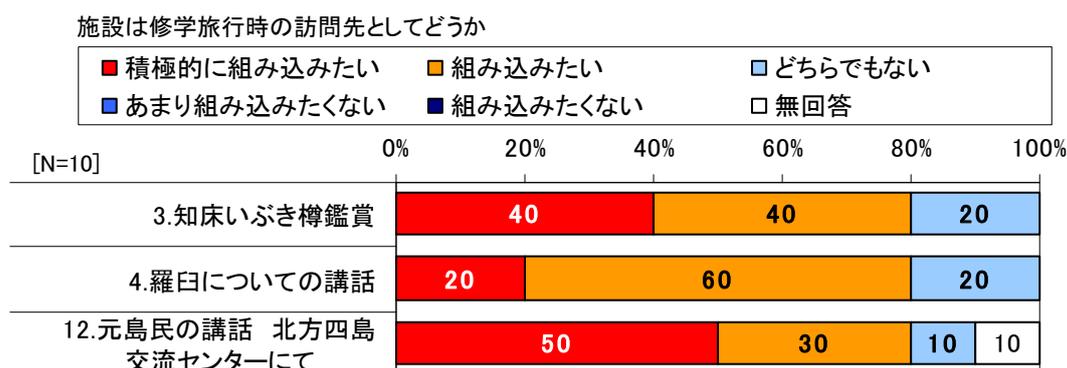
施設は修学旅行時の訪問先としてどうか



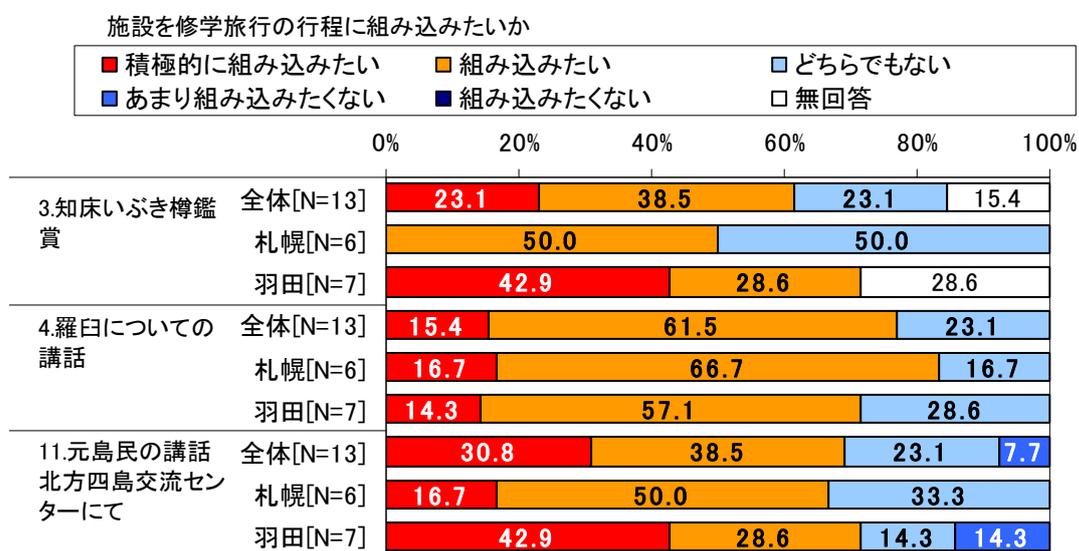
4-5-7 体験学習としての意向

旅行代理店の回答では、『元島民の講話』が、積極的に組み込みたいとの回答であった。学校の回答では、全体としての組み込み意向はそれほど高くないが、羽田組（関東圏の学校）の回答では、『知床いぶき樽』『元島民の講話』が積極的に組み込みたいとの回答が多く、札幌組（北海道の学校）とやや違いが見られた。

体験学習としての意向（旅行代理店）



体験学習としての意向（学校）



4-5-8 施設・体験学習への個別の指摘

アンケート回答の自由記述欄から各施設への主要なコメントを整理した。

(1) 羅臼港漁協施設

パネルなどの説明資料の充実と体験学習の実施を求める意見が多い

- ・ 「昆布」の格付けについての話しや、利尻・日高等との違いなどの話しがあれば尚良い。
- ・ バスでコンブやサーモンのビデオを見せて現場に行くと非常に理解し易い。又、日本とロシアの歴史的関係も説明しておくとも北方領土問題も身近に感じられる。
- ・ 現状では学生の興味を引きにくい。こんぶに触れて食べる。もしくは生徒にこんぶでだしをとった料理を体験してもらう等。漁業見学や模擬体験（網上げ、昆布仕訳など）など、考えながら体験し、理解してもらうようなことをプログラムできればと思います。
- ・ 漁業関係の体験やレクチャーと結びつけられれば、おもしろいと思います。昆布に関しては、食育としても、歴史の面でも産業としても学べることは多いので、工夫しだいで有効なとりくみになると思います。
- ・ 漁港では、もう少し何か実際に体験できることがないとインパクトがない。
- ・ 漁のピーク時と見学の時期が合わない場合の効果に差が大きいと感じる。
- ・ 昆布の生態がわかるパネルや説明をしてもらえると子ども達に伝わりやすい。歴史、地理、生物、時事問題など、コンブをめぐる多くの視点から総合的にわかり易く学習できるよう設備を整えてほしい
- ・ カット作業など体験がないとただの倉庫見学となり意味がない。中高生には地味な食材である昆布が日本人にとっては重要な食材であることを展示・説明されるとよいでしょう。一度に訪問できる人数は100人と聞いたが、実際に体験可能か。9クラス（360人）の高校は他施設と組み合わせが必要。漁港の他施設で体験可能なことは何か。

(2) 羅臼ビジターセンター

施設については満足度が高いが、収容人数を懸念する意見が多い

- ・ レクチャールームのハイビジョン映像は見ごたえあり、全学年に見せたいが収容人数（60名前後）に若干心配有り。人数が多い際は昆布倉庫と交代に入館すれば良いと思う。
- ・ 施設見学+ガイドツアーは学習効果が高い。周辺のウォークラリー等も地図やポイントを作成していただければ面白いアクティビティになる。世界遺産ということもあり、この地区修旅実施の目安になるはず。
- ・ 施設の規模が小さく、大型団体では難しい。シアターの上映が少し長く感じた。内容はとてもよかったので、15分程度で用意して頂けると使いやすいのではないかと思います。
- ・ 映像が少し長い。バス内でみた鮭（漁）や昆布の映像の方が面白い。修旅生に向けて作成してもいいと思います（15分程で）
- ・ インドア体験メニュー（クラフト体験等）があれば更に良いと思う。

- ・ 生徒の「はく製に触れてみたい」欲求をどう抑えるか
- ・ 自然遺産の入口としての施設として位置づけることができる。ビデオと説明ではやや物足りない所があるので、自然散策と合わせるなどが必要だと感じた
- ・ 100～200名規模で1度に見学はむずかしいと思いました。手にとって学ぶコーナーは魅力的ですが、好奇心旺盛な中学生にとって、興味をそそられる反面、事故が心配です。
- ・ 大規模な展示になれてしまった高校生にはインパクトが少ない、体験などのコーナーが充実するとよいと思う。
- ・ 生徒は記念のおみやげを買うが、価格的に小銭で購入できるものがほしい（金銭的にやや高め）

(3) 知床いぶき樽

樽を実際に叩ける、叩いている学生との交流、歴史や人々の生活との関わりについての説明を望む意見が多い

- ・ 年代の近い子供達が真剣に取り組む様子は迫力もあり非常に良いプログラムだと思う。生徒にも教えてもらったり、実際にたたかせてもらえると効果的だと思う。
- ・ 学生（樽を叩いている）との交流が出来る**と**よい。
- ・ 宿で鑑賞するプログラムとして是非使いたいと思う。樽を使い始めた歴史的背景や樽職人がおらず存続が危ぶまれている等の説明があれば学習としても使える。生徒達も参加できる体験があればなお良い。
- ・ 演奏自体は迫力があって見応えがあった。この芸能の歴史や人々の生活との関わり、現状など背景となるものがわかると、学習効果がでてくると思います。

(4) 羅臼についての講話

プログラムとしては問題ないが、生徒にとってはやや難しいのではとの声もあるため、生徒向けに説明方法等を工夫する必要がある

- ・ 北海道の歴史や北方領土について、現地の方から直接お話しを聞けるのは良い機会だった。100名以上収容し、講話を聞くことのできる場所があればぜひ取組みたい内容。
- ・ 考古学の部分は難しい。子どもに予備知識がないと分らない。
- ・ 羅臼のレクチャーは、写真と説明をしっかりと組み立てないと難しい。ポイントを絞らないと子ども向けでない。”
- ・ 羅臼の魅力が十分伝わってきた。個人的に夏の羅臼を訪れてみたいと思った。写真のインパクトも大きかったので、プレゼンテーションの流れを整理して全体をコンパクトにしてくれたら中学生でも最後まで集中して聞けるのではと思いました。
- ・ お話自体はおもしろく興味あるものであったが子ども達を対象にしたとき正直きびしいと思います。小グループにわかれてそれぞれ羅臼について事前学習したことを発表し、各グループに羅臼の方々に入ってもらって、歴史等いろいろなことで細く説明してもら

うとおもしろいのでは。船長さんのお話は映像もとても子どもの興味をひくものも多く、話もおもしろく、子ども達にもきかせたいと思うものであった。

- ・ 専門的な内容になるので、スライドを分かりやすいもの（年表や地図）を取り入れ、視覚的にも充実されるのが良い。

(5) 羅臼漁港

セリ見学は体験する機会が少ないため好評であるが、収容人数を懸念する意見がある

- ・ 羅臼での滞在時間が沢山あれば良いが、時間に余裕がなければカットしてもいいと思う。
- ・ 市場の雰囲気を感じられ、水揚げされる魚の種類等が理解する事ができる。ただし、忙しい市場で多数の学生がウロウロしているとじゃまになる可能性があるため、見学の方法を考えなければならない。
- ・ 箱いっぱいにつめられた魚も、せりの様子もめったに目にすることのない風景なので、中学生の興味をひくと思います。6月は多くの種類の魚が水揚げされるとのことで、見学するには好都合だと思うのですが、100～200人規模の見学は可能なのでしょうか？
- ・ セリの様子が比較的遅い時間に見られるので、修学旅行にはよい。その流れでお土産を買えるようなコース作りもよい。
- ・ セリの様子を見せると同時に事前学習をした後で模擬せりを体験させるプランがあると良い。

(6) 国後展望塔

展示物への工夫を指摘する意見が多い

- ・ 天気が良ければとても素晴らしい施設。立地の良さを活かした素晴らしい施設だと思う。
- ・ 収容人数の関係で一度に大勢入場出来ないことに難あり。
- ・ 国後島が目近に見ることができ、ここでの北方領土返還に関するビデオも学習効果があると思う。
- ・ 羅臼地区修旅の目的の重要な場所であり、展示物のもっと力を入れるべき。北方領土に住んでいた方の講話が出来ると良い。人数のキャパシティが少ないのが気になる所。
- ・ 展望については天候に大きく左右されるため、展示方法にもう一工夫あるとさらに良いと思う。
- ・ 施設は小さいが、ビジターセンターと入れ替わりにする等した行程を組めば問題ないと思う。学生が立ち寄る場所にはやはり御手洗いがあつたほうが良い。

(7) 標津サーモン科学館

アンケートの満足度も高く、自由回答でも展示内容・収容規模など、訪問先としての満足度も高い施設であり、修学旅行の訪問先として必須となる施設といえる

- ・ タッチプールなどもあり、生徒が喜びそう。館内をまわる時はしっかり係員を付けた方

が良いと思う。(自分達だけだとそのまま素通りになってしまう)

- ・ サーモンに関し、幅広く勉強出来て修学旅行の訪問先として最適。
- ・ 修学旅行等、教育プログラムに慣れているので、安心して実施できる。人数が多くてもローテーションが可能。晴れた日には展望台が素晴らしい。
- ・ 一般的な水族館にはない具夫（滝登りやタッチプール）が目新しい。また体験も多く、複合的な体験施設として是非訪問したい。
- ・ 展示内容、方法、体験学習含めて大変良い施設のため、積極的に勧めていきたい。
- ・ 1度に100～200名程度の生徒を活動、見学させることはできるので、見学場所に適していると思います。

(8) ちゃんちゃん焼き（標津番屋）

収容人数への不安とトイレの少なさを指摘する意見が多い

- ・ 食べる前に料理についての説明をしっかりと入れてもらうと効果的。トイレが少ないので、事前の案内が必要
- ・ 番屋の雰囲気はとても良い。お土産屋の2Fで食べる昼食と違って趣があり良い。
- ・ ちゃんちゃん焼きとジンギスカンは学生も食べやすく、量も多いので、是非、日程を入れたい。
- ・ 分宿している学校が一所に集まって食事を出来るのはとても良いアイデア。ただ、標津まで来て、この体験をさせたいかという疑問です。
- ・ 大人数入れる食事場所として使える、特に分宿の場合の集合食事場所として、しかし普段は店として営業している訳ではないというのが気になる。専属の店員さんではないので、大人数をさばききれるのか。貝の皿は良い案だが、衛生面を気にする人はいるかもしれない。
- ・ チャンチャン焼きに時間がかかった。360名の生徒に対応できる施設にしないと利用できない（分散は可）

(9) 別海北方展望塔

収容人数の少なさから、修学旅行時の訪問先としてはやや否定的な意見が多い

- ・ 国後展望台に比べると少し見劣りする。遊覧船の方が勧めやすい。
- ・ 途中休憩の場所として適度な大きさ、内容だったと思う。
- ・ 建物が小さいので2,3階への移動が現状では難しいと思うが、エレベーター設置工事中とのことで、建物を一周するルートが確保されると良いのではないのでしょうか。
- ・ 規模としては、トイレに寄る程度である。
- ・ 施設自体の展示資料は見るべき価値があるが、狭いのが気になりました。中規模の学校では他の見学場所とローテーションや時間差をつけられると組み込める可能性もあると思います。

- ・ 展望室の望遠鏡で国後島をクローズアップして眺められたのは良かった。展示にもう少しボリュームとひきつける工夫がほしい。1クラスくらいが限度か。
- ・ 1クラスで訪れるとしても規模が小さすぎるか、10人程度が適正と思われる。展望台からの双眼鏡による遠望はとて良いので、その際に的確なレクチャーが行えれば学習効果は高い。

(10) べつかい乳業興社（バター作り体験）

体験については好意的な意見が多い。収容人数を懸念する意見が多い。

- ・ 施設自体はとて良いので、あとは体験人数、時間、料金等、分かり易い資料が必要。
- ・ 施設も奇麗で、何と言っても「バター作り」が感動的。お土産にもなり、修学旅行の大きな思い出作りが出来て良い
- ・ 第3セクター、牛乳の無料配布する町の取組みなど・・・も学習できてよい。また広々と清潔にバター作りなどを楽しく体験できてよい。
- ・ 手軽に出来る体験としてお勧めできる。お土産になる体験は人気が高いので。工場の方は見にくい気がする。アイスクリームやヨーグルト工場は滅菌室で上から見ても分かりにくい。
- ・ まだ学生の体験プログラムとしては整っていないようだが、内容、値段としてはとて魅力的であった。学校の規模によっては今の段階でも勧めたいと思った。
- ・ 札幌、道内の学校の場合、周辺で同様の体験ができる。この施設だけでは、別海町の全体を調べることができない。また生産ラインが動いていない状況では、見学の効果はうすい。
- ・ バター作りはめずらしくないので、その他の魅力がほしいです。どこかと組み合わせるか、体験メニューが増えるかすれば可能だと思います。
- ・ 生徒の過去の体験の有無で変わると思います。過去に同じような学習をしていない生徒が多ければ学習効果は大きいと思います。他の施設の見学、体験と同時進行でいけたら、中規模クラスの学校でも何とかなると感じました。
- ・ アイスクリーム作り体験のメニューもあると生徒は喜ぶと思います。
- ・ 夏前後の暖かい時期に作ったバターを持ち帰ることが可能かどうか。当日、翌日の食事に利用する（パン食等）ことも良い。しぼりたての牛乳と加工した牛乳のちがいが何らかの方法で判るようにすると良いのでは。
- ・ 1クラス（40人）が限界か。9クラスの場合、他の体験と分散させる必要あり。

(11) 北方四島交流センター

施設、収容人数など満足度が高い。

- ・ 北方領土に関する知識を持っていない人が多い中で“知る”を提供する場としては、とて良いのではと思った。

- ・ 北方領土に関する見学施設（今迄に訪問した中で）、一番施設の、内容的にも充実していて、他より断然優れている。修学旅行として必見の場所であると思う。
- ・ 施設も素晴らしいし、講話も是非学生に聞かせたい。
- ・ 北方領土関連施設の中では一番充実していた。講話室も広く、一度で全員入れるのは良い点。
- ・ 施設もきれいで大ホールもあり、とても良い施設だと思った。まだまだ先生方の認識も低いのでどんどんPRして頂きたい。
- ・ 施設も広く、係員の方の説明もとても分かりやすかった。
- ・ 1.5時間（講話込み）は必要。モニターツアーの1時間では不足する。内容は中学生にはよい。
- ・ 見学も充実した活動になりそうだし、元島民のお話を聞ければなお学習効果は上がると思います。
- ・ 展示内容も学習効果が高い。ただ、人数が多いとやや不安になる。（貴重な資料が多いので）

(12)元島民の講話

事前に北方領土に関する知識を学習していないと内容が難しいとの意見が多い。本地域での学習の1つのパーツとして上手く組み込んで行くことが重要である。

- ・ この土地だからこそ組み込んで意味のあるものだと思います。ビザなし交流の様子など今の現状をもう少しお話し頂けると良かったです。
- ・ 元島民の方のお話を直接聞くことができるのももう何十年もできることではないと思うので、機会を頂ければ、積極的に取り入れたい。今後継続していくためにも元島民の方々のお話、ドキュメンタリー等を映像に残して頂きたい。
- ・ 学校にまで事前学習のために来ていただけるとのこと。修旅のメインにできるとは思いますが、話の内容については、学生向けにしていだければと思いました。
- ・ 講話はもっと北方領土に関したものを聞きたかった。（島での暮らし、島への想いなど）
- ・ 元島民の方の講話は十分に事前学習をしてから聞きたい。
- ・ 中学生、高校生の予備知識をふまえて、何を伝えたいのかねらいとポイントを絞る必要がある。
- ・ 「元島民」の話の聞けるということだけで価値はあると思います。もう少し島での生活や、今の島へのお気持ちを聞きたかったです。
- ・ 中学生にとっては難しい内容でしたので、分かりやすい内容でインパクトのあるお話をしていただくと、学習効果が高まると思います。
- ・ 生徒から質問に答えてもらう時間をとる。
- ・ 元島民の方の話は、大変良かった。なかなか難しいし、本人にも苦しい思いをさせてしまうかもしれませんが、四島からの退去やソ連軍の進駐時の様子などを詳しく話しても

らえると生徒の心に届くものになると感じます。

- ・ 元島民の方の経験は沖縄戦や原爆の経験と違い（瞬間的なものでない）基地問題と同様の日常の問題だと思うので、必ずしも一世の方ではなく、二世、三世の方でも良いのではないか。
- ・ グループに分けての講話にすれば生徒もより集中して聞けるのではと思います。
- ・ 島を離れる時の状況や国土の認識、日の丸の意義、日本人としての意識はとても重要で、大きな問題提起で良いと思った。島での生活状況（自然、四季、産業）などをもう少し、知りたいと思った。修学旅行では是非とも入れるべきプラン。
- ・ 島民の生活の様子や我が国固有の領土であることを理解させるような話であることを理解させるような話であると良いのでは。
- ・ 四島の暮らし、ソ連侵攻時の様子、終戦後の苦労など、生徒の感情をゆさぶる心に訴える話が欲しい。生徒に分かるように当時の様子を話してほしい。

(13) 納沙布岬および北方館

説明については満足度が高い。北方館の資料や施設の充実を求める意見が多い

- ・ 北方領土問題を最も切実に感じられる場所でした。説明もポイントが絞られていて、大変わかりやすく、説得力がありました。子どもが学校に戻ってからの何らかの取組ができるようなプラン提供があってもよいかと思えます。
- ・ 天気左右されるのが難点ですが・・・歯舞、国後を直に見ることができるのは北方領土問題を身近な問題としてとらえる機会となると思えます。
- ・ 道東の旅行としては必ず連れていきたいと思えます。北方領土のことについて考えさせる点ではとても良いと思えました。
- ・ 生徒 40～120 名、どのような受け入れ体制になるのか？可能か、それとも、10 名程度の班別研修がベストか？
- ・ やはり距離の近さは強い。納沙布に至る大地の景観などもあわせて示したい。
- ・ 島との位置が近いので、領土問題の実感が持てる場所だと思います。元島民との交流だけでなく、現在のロシア人との交流も実現できれば生徒の意識も高まると思えます（かなりハードルは高いと思えますが）
- ・ 中間ラインが実感できるような地図や写真などがあればより良いと思う。ビザなし墓参の渡航がいかに大変かが理解できるので、生徒に向けても話ができればよい。
- ・ 映画や講話を聞ける講話を聞けるホールがあるとよい。音と映像による体験コーナー（ホール）がほしい。
- ・ ビデオが 40 分との事。もう少し短い（20 分まで）ものを見られる設備があれば良いと思う。ここもしっかりガイドを付けて回らないと学習効果はないと思う。
- ・ 島を眺める場所は 1 か所組み込めば良いと思えます。（羅臼のみで良いのでは？）
- ・ 施設、展示内容共に古いイメージ。最東端に行くという目的以外ではあまりお勧めでき

ない。倒れそうな灯台は衝撃的だった。

- ・ 実際に目で見ながらの学習はとても印象に残る。建物の立地条件はとても良いと思うので、中の資料、写真等の充実、シアター形式での説明ができれば尚良い。
- ・ 最東端で実際目で見ながら話も聞けるのは良いが、内容としては、ニホロと重なる点も多いので、うまく連携してより学生が理解を深められるようにしていただけるといいと思います。

(14)開陽台展望台

中標津空港から近いこともあり、到着後または出発前の時間調整としての利用を想定した意見が多い

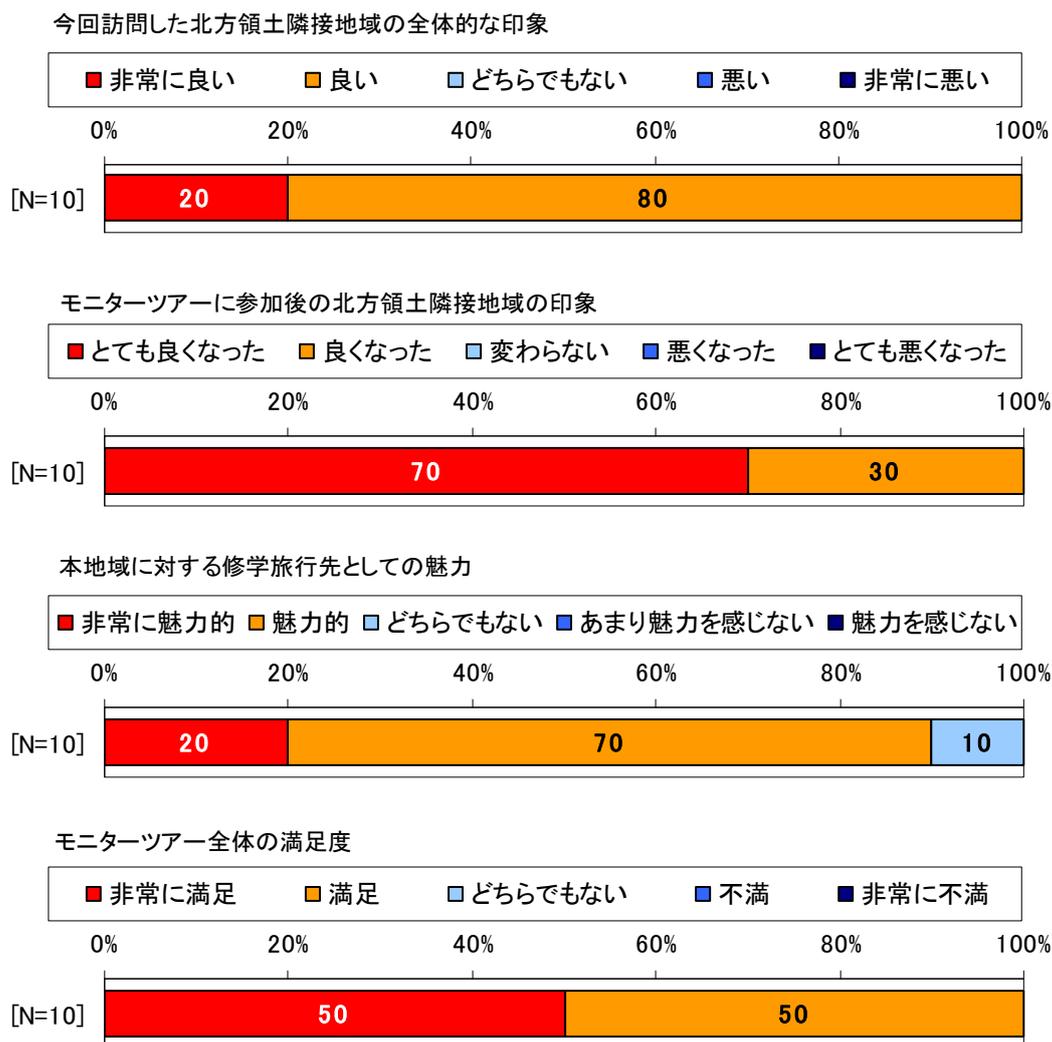
- ・ 何もない素晴らしさ。北海道の広さを実感できるので、ぜひ立ち寄りたい。
- ・ 北海道の道東1つの観光スポットに過ぎず、修学旅行（北方領土）と直接の結びつきがない。コースに取り入れなくても良いかも。
- ・ 景色がすばらしい。地球がまるい事が良くわかる。
- ・ 時間調整などで立ち寄りたいところ。雪景色の方が見応えがあるかもしれない。夜のオプションで星空観賞ツアーは面白いと思う。
- ・ 空港に戻る際の時間調整場所として最適だと思う。
- ・ 案内が消えかけている部分があったので、山名など案内いただける方がいればより学習効果があがると思う。
- ・ 景色が良かった。
- ・ 空港利用時の時間調整にもいいが、到着時の最初の見学地としても良い。

4-5-9 モニターツアーの評価

(1) アンケート集計

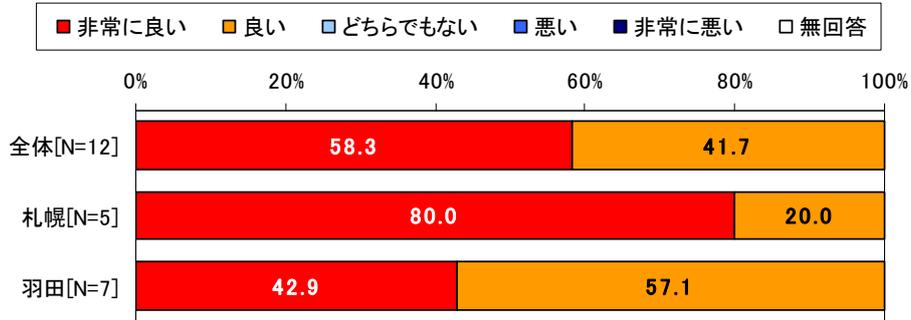
旅行代理店及び学校ともに、モニターツアーに参加したことによって北方領土隣接地域に対する印象が向上している。また、修学旅行先としての魅力も感じていただき、ツアーに対する満足度も高いものとなっている。

モニターツアーの評価（旅行代理店）

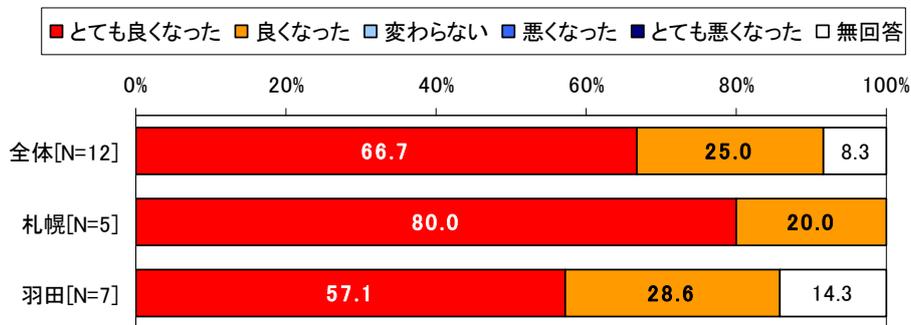


モニターツアーの評価（学校）

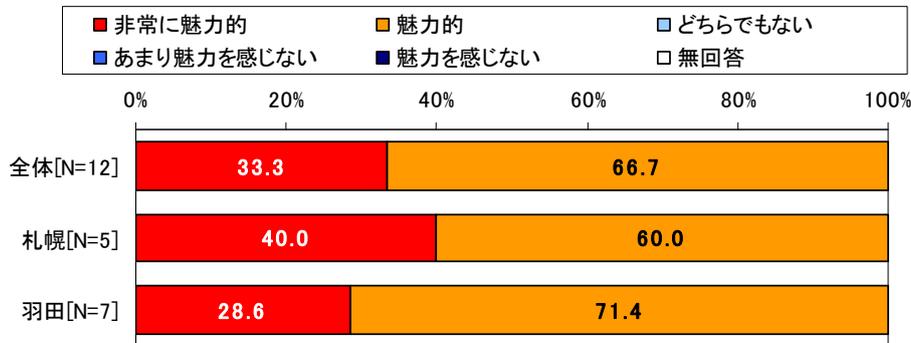
今回訪問した北方領土隣接地域の全体的な印象



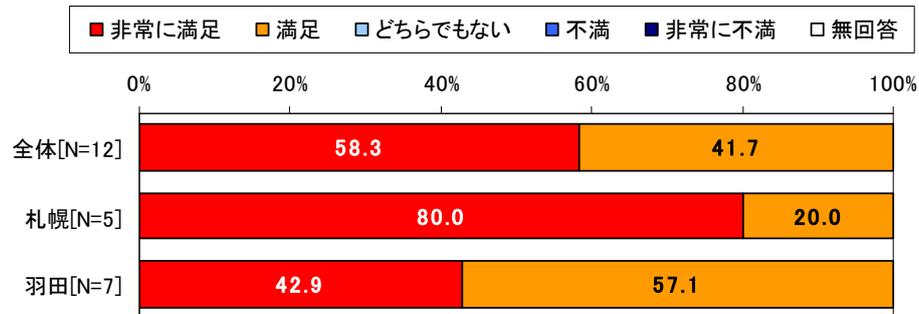
モニターツアーに参加後の北方領土隣接地域の印象



本地域に対する修学旅行先としての魅力



モニターツアー全体の満足度



(2) 自由回答の意見等

全体の満足度は高く、北方領土隣接地域の魅力を発見したとの意見が多い。修学旅行の実施においては、アクセス、宿泊、(収容人数が少ない施設での)ローテーションを具体的に示すことが必要との意見が多い

- ・ アクセスが問題。また、受け入れ人数が少ないのも難点。現地も「ないですよ」とか「クラス単位で来てくれれば」とか言っているうちは修学旅行は来ないし、増えない。積極性、熱意が他地域に比べ薄い。もっと本気になってもらわないと代理店は提案できない。素材は良いと思うが、それをそこで終わらせないようにしてほしい。北方領土に関しては、来ないと解らないことがたくさんあり、本当に勉強になった。
- ・ 今回のモニターツアーでは訪れなかったが“野付半島・トドワラ”は是非修学旅行で立ち寄る必要がある見学スポットだと思う。また、修学旅行行先決定で重要なポイントである「宿泊施設」に関し、滞在したホテルのみでなく同等の他ホテルも視察してみたかった。体験ものもバターのみでなく、他ジャンルについて紹介出来ればして欲しかった。
- ・ 現地の高校生との意見交換や交流もプログラムに入れても良いのでは。標津などでは学習体験プログラムが充実している事に感心した。
- ・ やはり実際に見て体験する事は、これからの企画には、不可欠。食、国、国際交流も併わせて学習できる他、現地の方々歓迎や誘致活動も体感出来ました。予算、交通など問題はありますが、年間をかけてもクラスごとや分割するなどし、実施させる方法はきっと見つかると思います。
- ・ 飛行機のキャパシティ、宿や施設の大きさから言うと、2クラスが限界。高校修旅は現状難しい印象。宿泊は民宿がこの地域にマッチしているのでは。観光素材としては充分そろっている。体験はバターづくりの他、ラフティングや乗馬も出来ないだろうか？食事や景色も必ず満足できるもの。あとはアクセス面さえ改善されれば、修旅誘致も可能だと思う。観光に染まらず、ありのままの姿というのもこの地域としての良さだと思う。
- ・ 道東には修旅の素材となるものが多く、とても魅力的だった。ただ、北方領土問題が子供たちにとって身近でないと思うので、北海道にやってきていきなり学習というのは難しい。現地、政府の方々の力をかりて北方領土問題を身近な素材として頂きたい。(事前学習等) また、ハード面において現状は2クラス程度の学校でないと難しく、ほとんどの学校が来られない状況である。宿舎、見学施設、AIR 全ての利用可能人数を増やしていただければぜひとも先生方にお勧めしたい地域だった。
- ・ 今回のツアーに参加してとても勉強になりました。ニホロやノサップ岬は修旅生にも良い施設だと思います。宿泊や他の施設では受入人数に限りがあると思うので、その問題の解決と学校や旅行会社への積極的に PR していただきたい。また、北方領土関連ばかりではやはり重くなってしまうと思うので、自然に触れたり、体験などの素材がもっとあるといいと思います。子供たちには是非この自然を見てほしいと思いました。まずは既存の道東方面のツアーに少しずつ組み込みできればと思います。

- ・ 地域性、自治体それぞれのちがいをくわしく知ることができたことは、修学旅行などと企画・実行していく者として大変有益でした。やはり見ること、聞くことは、大切であると感じました。修学旅行の実施については、アクセス・宿泊の面が重要であり、各町、市から、その部分の情報がなかったのは残念でした。それぞれの町にどう引き込むかより、管内全体としてのプログラム、北方領土学習が構成されていくことが必要かと思えます。
- ・ 北方領土についての見方が変わりました。ぜひ生徒にしっかりと事実を伝え、考えさせたいと思います。また、多くの体験学習ができることもわかり、よかったと思います。どうしても修学旅行で考えなければならないのが雨天時やシケのときの代替メニューになります。せっかく高い代金をかけて訪れるのですから、可能な限り「驚き」や「感動」のある旅行になればと思います。受け入れ人数についても少しでも増えればと思います。
- ・ 学校の規模によっては全員が受け入れられない施設が多いので、ローテーションをうまくやる必要を感じる。道内に住んでいても、北方領土について学ぶ機会がないので、学習という点を重視して修学旅行を行う場合、地元の中学生の返還運動の交流などを盛り込んでもおもしろいのでは。またワークシートを事前に作成し、それをもとに来る前に学習して見学にのぞむとよりみのあるものになると思う。小規模校だとすごく中身の濃い修学旅行になると思う。プランによって様々な可能性を感じました。普段道南はあまり候補として考えないのですが、こんなに見るに値する場所があることを知り、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 学校の規模に影響されないコースづくりができれば修学旅行先として非常に魅力的な地域だと感じました。北海道の漁業、酪農が凝縮された内容であり、北方領土も含め、北海道に住んでいてもあまりわからなかったことが多く、勉強になりました。今後、修学旅行もふくめ、旅行行事を計画する中で、候補地として考えていきたいと思う。
- ・ “北方領土隣接地域” 北方領土を考える“平和教育北海道版”として実施か、“道東”地区の地場産業を中心におさえたいのか。2本立てで組み立てるのが良いと考える（沖縄は平和+アクティブの2本立て）領土問題に対し、文科省はもう少し頑張っていたきたい。
- ・ 各自治体の取り組みぶりを知ることができたのが良かった。「百聞は一見に如かず」でパンフレットではわからない部分をつかめたのが良かった。実際の運営は必ずしも根室管内だけで完結されるわけではないことを考えるとそのあたりの情報もあると良かった。どの自治体も自分のところですべて引き受けようとしている向きがあり、横の連携がもっとあると良い。何よりも宿泊施設の量的な課題が大きい。
- ・ 修学旅行コースとしても魅力・可能性は充分にあると感じました。学習的な要素は充分すぎるほど豊富で学校内でも賛同は得られると思います。ただ、現場の生徒は必ずしも学習意欲が高いわけではなく、教員も修学旅行に積極的な教員は少ない。現在ニセコラ

フティングを中心としたコースを実施しているが、学習面の要素は少ない。ラフティングを上まわる体験コースの開発ができればすぐにでもコース作りは可能です。沖縄の平和学習もレベルは高いが、同等の内容は可能だと思います。国家的な問題だと思いますので、修学旅行を受け入れるインフラの整備等、より充実させてほしい。埼玉県は予算的な上限が決められているのでそれもクリアしなければいけないと思います。本格的なコース作りをするのであれば、ぜひ協力したいと思います。北方領土問題は自分には関係ない出来事だと思っていました。元島民の人達にとっては残された時間は短いという話も聞き、ぜひ協力したいという気持ちが強くなりました。ありがとうございました。

- 実際に訪問して、北方領土問題の現実がより一層理解でき、日本国有の領土の認識を持った。同時に一世の方々が減少していく中でいかに返還運動を続け、政府を動かすかが課題と思う。修学旅行で巡ることを想定した場合、どの地域でも領土問題がからみ、生徒にとって毎日が重い話が続き、気分の転換ができない面もある。コースの設定で北方領土問題、観光と分けて実施できるようにする必要があると思う。学校として歴史をしっかりと認識して領土問題を事前学習させることが大切で、社会科が中心となると思うが、その養成や内容をしっかりと充実させる必要を感じる。このツアーを通して北方領土問題を日本中に伝え、子供達に伝えることが大切と感じました。
- 納沙布岬と北方館はこれからの子どもたちに見学させたいと思います。羅臼については、観光および北方領土問題を子どもたちに分かりやすく学習するシステムを作ると良い気がします。
- 羽田からの輸送の問題。宿泊所の問題、体験（内容見学）の問題、以上について300人～400人をどう対応できるのか。具体的につめる必要がある。生徒が思いきり体を動かせるものがほしい。少し疲れるほどのもの。林業、丸太切り体験などできないか。根室市街地の班別自主研修ができるようにマップをつくってほしい。地元の中学生や高校生と交流できないか。カンタンなレク的なものとか、話し合いとか。

4-6 旅行代理店へのフォローアップ

旅行代理店向けモニターツアーに参加した9社に対し、2012年3月初旬から中旬にかけて、その後の北方領土隣接地域に対する旅行造成等の状況について電話で確認した。

4-6-1 旅行代理店による旅行造成等の状況

(1) A社

- ・ 社内の営業会議で報告した。宿泊や飛行機（ハイシーズンは便の確保が難しく、料金が低い）が指摘された一方で、時事問題にも絡んでおり、是非生徒に知ってもらいたい題材である。将来的には修学旅行の行先になる可能性があることが確認された。
- ・ その他、各営業にも当該地域の修学旅行を提案するように伝え、私立学校等で営業活動を行っている。実際に招致に結び付いた事例はまだない。

(2) B社 大阪教育旅行支店

- ・ モニターツアー参加後、当該地域への修学旅行に関して営業本部に報告した。受け入れ可能人数が課題だが、素材は面白いと判断し、少人数向けの旅行として売り込むことを検討している。
- ・ 今後は、大阪私学の校長・教頭会の研修旅行向けに営業をする予定である。参加者は20人～30人程度で、日程は1泊2日が多い。学習を兼ねた場所が目的地になることが多い。2011年度は、被災後の仙台だった。
- ・ その他、少人数で修学旅行を実施している私学の中高一貫校に営業をする予定である。

(3) B社 千葉支店

- ・ 社内ではモニターツアーの報告書を作成・発表を行ったが、修学旅行向けではなく一般向けではないかという声が多かった。
- ・ 受け入れ人数、料金の問題から、学校に対してはまだ営業できていない。
- ・ 学校の先生向けの研修旅行で、知床に行きたいという話が出ることもあり、隣接地域を含めて営業することを考えている。

(4) B社 東日本営業本部

- ・ 都内高等学校の修学旅行向けに、当該地域を含んだモデルコースを作成した。今後、営業用に活用していく予定である。
- ・ 都立中学校で、当該地域への修学旅行に関心を示しているところがあり、営業を行っている。

(5) D社 名古屋支店

- ・ モニターツアーに参加した資料をまとめ、営業用に活用している。

- ・ 現在把握しているのは、当該地域方面に修学旅行を実施している学校に対して、標津サーモン科学館の訪問を営業した。現在、見積もりを取っている段階である。

(6) E社 東京第3教育旅行支店

- ・ モニターツアー参加後、東京・私立の高等学校 3校に当該地域への修学旅行を提案した。この3校は、修学旅行の行き先の変更を検討しており、新しい素材を探しているところだった。モニターツアーで入手した当該地域のパンフレット等で説明を実施した。特に、羅臼から国後島を近くに眺められる感動を紹介した。
- ・ この3校は、大規模校であるため、宿泊場所の確保の点で懸念があるとのことである。1泊2日でコース別に分けることも提案したが、その後、進展していない。
- ・ モニターツアーに関しては社内でも報告を行ったが、各施設の収容人数や飛行機の問題が指摘された。

(7) G社 東京旅行支店

- ・ 現在のところ、モニターツアーに参加した成果は活用していないが、今後の営業に向けて検討したい。

(8) J社

- ・ 旅行代理店に対して、女満別便・中標津便の営業を強化したい。
- ・ その他、招待旅行として、当該地域の営業をしたいと考えている。招待旅行は、企業が主催し、抽選で選ばれた一般人を招待するものを想定している。

(9) L社

- ・ 専門学校の少人数の修学旅行向けで、現在2校に対して当該地域の提案を行っている。

4-6-2 旅行代理店による取組み状況

4-6-1の聞き取り調査により、少しずつではあるが、具体の営業活動が実施されはじめてきている様子が分かる。電話での聞き取りでは、実際に当該地域を訪問したことから、担当者が積極的に社内での報告等も含め、活動している様子であったことから、モニターツアーを実施した目的が達成されているものとする。

4-7 モニターツアーのまとめ

モニターツアー全体を通じての参加者からのご意見、アンケート集計、アンケートでの記入等から、今回訪問を実施した施設等の課題と今後の展開案等を以下に示す。

(1) 羅臼港漁協施設（昆布倉庫）

空港から羅臼町への移動時に昆布についての DVD を上映したため、予備知識の習得と現地での説明補完になった。逆に、倉庫内の説明時間では十分に理解されなかった可能性も否めない。特に倉庫内に修学旅行生を入庫させ説明するのであれば、パネルなどの説明資料の充実は必須となると考える。

また、体験学習の実施を求める意見が多いことから、羅臼町内で修学旅行の規模に対応できる体験場所を確保することも必要になると考える。

(2) 羅臼ビジターセンター

施設そのものについては満足度が高い。しかし、収容人数を考えると 1 クラス（40 名程度）が実質的な収容人数であるため、羅臼町の他の施設（例：昆布倉庫）とのローテーションを検討する必要がある。

また、センター内での体験、中高生が購入可能な廉価なおみやげを用意するなどの検討も必要であると考ええる。

(3) 知床いぶき樽

旅行代理店および学校の双方から好評価を受けている。特に学校の要望としては、樽を実際に叩く体験や、叩いている生徒との交流、解説（歴史、地域との関わり（どのような場面で知床いぶき樽を演奏するか）など）など一連のプログラムとして造成すれば、修学旅行の 1 つのメニューになると思われる。

(4) 羅臼についての講話

生徒にとって難しいとの声が聞かれた。生徒向けに説明の構成、使う言葉など工夫する必要がある。

(5) 羅臼漁港

市場見学およびセリ見学は非常に好評であった。唯一の懸念は収容人数である。羅臼での修学旅行の 1 つの目玉になる可能性は高いが、対応できる人数の明示、水揚げがない場合の代替案の提示をしないと、期待を裏切る可能性もあるため、注意が必要である。

(6) 国後展望塔

国後島が間近に見えるということもあり、好評であったが、展示物の充実、元島民の講話の可能性を含め検討すべきである。

(7) 標津サーモン科学館

アンケートの満足度も高く、自由回答でも展示内容・収容規模など、訪問先としての満足度も高い施設である。修学旅行の訪問先として必須となる施設といえる。

(8) ちゃんちゃん焼き（標津番屋）

限られた時間での食事になるため、火の準備など滞りなく進むようにオペレーションを確実にする必要がある。収容人数への不安の声もあるので、実際にオペレーション可能なリアルな人数提示は必須である。また、トイレの少なさを指摘する意見が多いことから、雨に濡れず行けるトイレの設置は対策の要検討事項であると考ええる。

(9) 別海北方展望塔

収容人数が少ないため、修学旅行時の訪問先としては難しいと思われる。

(10) べつかい乳業興社（バター作り体験）

関東圏からの参加者には比較的好評を得ているが、札幌からの参加はそれほど高くない評価となっている。札幌からの参加者にとっては、乳業およびバター作りが真新しいものではないことがその要因として考えられる。修学旅行先としては賛否が分かれていることから、明確に見学内容、体験内容、収容人数を提示する必要があると考ええる。

(11) 北方四島交流センター

施設の充実度、収容人数など総合的に見て好評を得ており、修学旅行先として必須となる施設に位置づけられる。

(12) 元島民の講話

島での生活、退去の様子、戦後の生活、島への思いなど、時系列で内容を組み立てる必要があると考ええる。例えば、2世・3世を司会者（1世への質問者）として、内容がぶれないよう、また、事実関係を補完するような進め方をする方法も考えられる。同時に、当時の映像を流すなど視覚的にも分かりやすくすれば学習効果は高いと考ええる。

(13) 納沙布岬および北方館

説明者の説明は好評であった。北方館の資料や施設の充実を求める意見が多い。北方四島交流センターとの役割分担を含め検討する必要があると考ええる。

(14)開陽台展望台

中標津空港から近いこともあり、到着後または出発前の時間調整としての利用を想定した意見が多い。その点を踏まえ、アピールすることが考えられる。